

『ゲストハウスガイド 100 -Japan Hostel & Guesthouse Guide-』

出版記念トークセッション&交流会 in ちば

—開催趣旨—

日本にも増えつつある新しい旅の滞在形態“ゲストハウス”を知っていますか？
ただの簡易宿ではなく、人気のあるゲストハウスは、
まち全体を楽しむ拠点となり、人との出逢い・交流の空間となっています。

ゲストハウスに泊まりに行く旅人にとっては新しい旅の楽しみ方であり、
今まで以上に旅をより楽しく、旅先の地域に深く触れながら遊ぶという魅力があるのでは
ないでしょうか。

成田空港は海外からの日本の玄関口でありながら、
成田市の現在の客室数 8,000 室（旅館業営業許可数）の現状は、
成田空港国際便利用者年間 2,250 万人の需要に答えられていません。
成田市だけでなく、近隣市町村にも宿は数えるほどしかありません。

今後オリンピックを見越して高まる観光と宿の需要に対応するため、
また一方で地方の課題となっている高齢化と
人口の都心部集中に対する地方の人口減少による空き家問題への対策として
ゲストハウスというその新しい活用法を提示する試みでもあります。

また、インバウンド景気を取り込むのみにとどまらず、
町自体の宿泊※による地域資源の発掘を基盤に、しいては、
国内の交流人口の増加・移住促進の可能性が大いに期待できます。

今回の出版記念トークセッション&懇親会では、
ここ数年で大きく広がる新しい観光交流と宿泊のかたちである「ゲストハウス」の魅力を
考えます。

宿の種類と数において日本は、人々を魅了してやまない観光立国フランス(約 5 万件)やイタ
リア(約 2 万件)などと比較すると数百件程度で遅れをとっています。
佐倉市という地方都市において、既に他県で町全体を楽しめ、人々の交流スポットとなっ
ている「ゲストハウス」を起点として、
町の未来を考えることは意味あることではないでしょうか。
明るい未来を語る楽しく有意義な時間となることを祈って。

▼コーディネーター協力

金丸弘美（食環境ジャーナリスト・食総合プロデューサー）

<http://www.banraisya.co.jp/kanamaru/home/index.php>

▼コーディネーター&司会：小藪和美

総武建設株式会社 2代目代表取締役。

郊外の豊かな暮らしを発信する分譲住宅「SBホーム」の設計・施工・販売を行う。

北総唯一の食の地域誌「ちばのへそ」編集長。

遊休不動産を活用したコミュニティスペースを実験的に運営中。

<https://www.facebook.com/chibanoheso/>

<http://yachimata-youth.com/>

問い合わせ申込み先：総武建設株式会社

TEL:043-443-7811 /Mail:info@soubukensetsu.com

※アルベルゴディフーズ…(伊)アルベルゴ=宿、ディフーズ=散らばっている、ことより「散在する宿」が直訳ですが、

その町に暮らしているように滞在するヨーロッパでみられる形態のことです。

これまでの垂直型ホテル形式ではなく、町のどこかの受付でチェックインをし、どこかの宿に泊まる。

食事は町中のどこかのレストランで。水平にネットワーク化されたコンテンツの中で町全体に泊まることを可能にしています。